

漏るる事^一、今聞く所に随ひてしばらく載さまぐのみ。賢授りて惟ひ付れば、心の塗^二……
者は鉄の杖身に加はり、善を好む者は金の珠体に装ふ。譬へば押さば向ひ依り、牽かば避け斥き、加へば損滅ひ、除かば満益すが如し。流頭の糠を食み、朱明の宝を捨て、許由の耳を洗ひ、美父の牛を引く、あに此の意に異ならむや。死にて三界を還ること車の輪の如し。生れて六道を廻ること荊の移くが似し。此に死に彼に生れ、具に万の苦を受く。患しき因は轡を連れて苦の処に移る。善き業は縁を攀ちて安き界に引く。願ひ慈ぶるに頼りて膝の前に賢を懐く。生て愛ぶるに由りて頂の上に羽を棲はしむ。孟嘗の七の善と、魯恭の三の異とは、けだし斯の意なり。然れども景戒、性を棄くること聴くあらず。口に談ること利くあらず。神の遲鈍きこと鋸の刀に同じくして、字を連居けども華しくあらず。情の意意なること船に刻めるに同じくして、文を編造れども句を乱す。善を貪ふことの至に勝へず、拙くも淨き紙を讀し、口伝を謬注し、隠て婉ち慮りて忝ち、顔醜り耳熱し。庶はくは、拾めたる文を觀る者、天に愧ぢ人に慙ぢて事を忍び事を忘れよ、心の師と作りて心を師とすることなかれ、と。此の功德に藉りて、右の腋に福德の翻を著けて冲虚の表に翔り、左の脇に

させた僧の説話は高僧伝にも少なくないが、諸経要旨の対向より曇光の事蹟と推測。所以曇光釈子、降、曇光於餘前、轉輪仙人、宿、曇光於頂上二(諸経要旨、大徳部、海遠篇、求意、影)。一願生慈愛が二句に分割されている。ニトヲ。国会図書館本訓釈(止)念。元来は別の縁をさした。爾雅(釈詁)賈(有)力唐人以(ヲ)賈(ヲ)為(虎)賈(太)祖(ノ)諱(也)(攷証)。唐の太祖は李虎。一三尚闡利が樹下にて坐禪している間に、鳥が髻の中に卵を産んだ。尚闡利はそれを知つたが鳥の子が飛び去るまで立ち上がらなかつた(大智度論・十七)。二四孟嘗、字は伯周、後漢書・循吏列伝に伝がある。五孟嘗還珠(曇光の故事が著聞する。七善は未詳。曇光が孟嘗の行ないを七表をもつて上書したこと(後漢書と関係あるか。文脈より推して鳥蘭にかかわるか。六魯恭、字は仲康、後漢書に伝がある。魯恭の善政によりて、虫不犯境、化及鳥獸、堅子有仁心、の三異があらわれた。裴求に魯恭訓進がある。漢書・九に、良吏をあげた中に孟嘗と魯恭とがみえる。六曇光、尚闡利、の仏教的行為と、孟嘗、魯恭、の非仏教的行為とが同一である、と説かれる。善因善果といふことを金剛においての記述であらう。二〇鋸は鋸に同じ。鋸の意で用いられることが多い。二一なまりは鋸と鋸との総称。鋸の刀、ではなく、鉛の刀、を意味するのであらう。国会図書館本訓釈(續ナマリノ)。二二呂氏春秋・察今にみえる故事にもとづく。江を渡る時に舟より剣をおとした楚人、おとした場所を示す目しを舟に刻んだ。二三願作心師、不師於心二(大般涅槃經・師子吼菩薩品)。二四原文籍此功德、普施群生、共成仏道は、回向文(二)の形式。

智慧の炬を燭して仏性の頂に登り、普く群の生に施して、共に仏の道を成らむ。

己が高徳を待み賤しき形の沙弥を刑ちて現に患しき死を得る縁 第一

諸葉宮に宇大八嶋国備めたまひし勝宝心眞聖武太上天皇、大なる誓願を發し、天平元年己巳の春二月の八日に、左京の元興寺にて、大なる法会を備け、三宝に供養したまふ。太政大臣正二位長屋親王に勅して、衆の僧に供ふる所に任てたまふ。時に一の沙弥有り。濫しく供養を饒る処に就きて、鉢を捧げ飯を受く。親王見たまひて、牙冊を以ちて沙弥の頭を罰ちたまふ。頭破れ血流る。沙弥頭を摩で、血を捫ひて恸み哭きて忽に觀えず。去る所を知らず。時に法会の衆道俗僧に嗔きて言はく「凶し。善くあらず」といふ。一日を還て、嫉妬む人有りて天皇に讒ちて奏さく「長屋社稷を傾け国位を奪はむことを謀る」とまうす。爰に天心に瞋怒りて、軍兵を遣し陳ねたまふ。親王自づから念ひたまはく「罪無くして囚執はる。此れ決定めて死なむ。他に刑殺さるる

第一縁 長屋王の妾を因縁の理によつて説明する。隱身の罪を迫害した悪業に対しての惡報とされる。御靈信仰的な記述も含まれている。今昔物語集(二二)ノ二十七に書承。扶桑略記(神龜六年条)に引用。
二七二五年。神龜六年八月五日、改元して天平元年(續紀)。この法会に関しては、本説話以外に所伝をみない。金堂の竣工にかかわるか、とするのは太田博士の説。三長屋王。云大臣正二位長屋王(續紀・天平元年二月十日条)。「長屋親王」とする例は長屋王家木簡にみえる。四沙弥は衆僧には含まれないのであらう。五牙笏。象牙製の笏。笏の音はコチ、コツ。笏を「しやく」と称するのは「尺」の音を借用したことに由来する。唐代には一尺の笏が用いられたらしい。南海寄歸内法伝一には笏尺という単位がみえる(條訓註に指摘がある)、著聞する維摩の方丈室も王公侯の計則では十笏とされる(たとえは法苑珠林・感通篇・聖迹篇)。「事」と同音の「コチ、コツ」が忘れた、とする説が通行する。「世」はサク、シャクの音をあらわす。「笏」四声字苑云「笏音忽、俗云尺」、手板長一尺六寸、闊三寸、厚五分也(和名抄)。牙笏は五位以上の者が把る(續紀・養老三二年二月三日条)。五小声でいう。名義辭に「笏」サ、メクとあるが、「摩」をこの意で用いた例は他にみえない。六二月辛未、左京人從七位上條部造善足、無位中臣宮如連東人等、告密稱、左大臣正二位長屋王、私學左道、欲傾國家二(續紀・天平元年二月十日条)。七他人に殺されることは、自殺することに及ばない。「為」他刑殺と「自死」を比較し、「自死」をえらふ。原文二為「他刑殺は二為」の文型で被動を示す。

黷淨紙、謬注口伝、³⁰醜婢慮奈、³¹顏醜耳熱、³²床觀拾文者、愧天慙人、忍事忘事、³³作心之師、³⁴莫心為師、藉此功德、³⁵右腋著福徳之翮、而翔於冲虚之表、³⁶左脇觸智慧之炬、而登於仏性之頂、普施群生、共成仏道也、

特己高德、刑、³⁷賤形沙弥、以現得惠死、³⁸緣第一

諾樂宮御宇、大八嶋國勝室心眞聖武天皇、³⁹發大誓願、以天平元年己巳春二月八日、於左京元興寺、備大法會、供養三宝、勅太政大臣正二位長屋親王、而任於供衆僧之司、時有沙弥、⁴⁰濫就供養之處、⁴¹捧鉢受飯、親王見之、以牙冊以罰沙弥之頭、々破流血、沙弥摩頭、⁴²捫血恸哭、而忽不覩、所去不知、時法會衆、道俗僣之、⁴³言凶之、不善矣、⁴⁴逕之二日、有嫉妬人、⁴⁵譏天皇、⁴⁶奏長屋謀傾社稷、⁴⁷將奪國位、⁴⁸爰天心順怒、遣軍兵陳之、親王自念、無罪而被囚執、此決定死、為他刑殺、不如自死、即其子孫、令服毒藥、而絞死畢後、親王服藥而自害、⁴⁹天皇勅捨彼屍骸於城之外、而燒未散、⁵⁰河、⁵¹擲海、唯親王骨、流于土左國、時其國百姓多死云、百姓患之、而解官言、依親王氣、國內百姓、可皆死亡、⁵²天皇聞之、為近皇都、置於紀伊國海部郡板村、⁵³與嶋、嗚呼憫哉、⁵⁴福貴儼之時、高名雖振、⁵⁵垂裔而妖、災霧之日、無所歸、⁵⁶唯一旦滅也、誠知、⁵⁷怙自高德、⁵⁸刑彼沙弥、⁵⁹護法噴喊、⁶⁰善神慍嫌、⁶¹著袈裟之類、⁶²雖賤形、⁶³不応不恐、⁶⁴隱身聖人、⁶⁵交其中、⁶⁶故、⁶⁷僣慢經云、⁶⁸先生位上人、⁶⁹釈迦牟尼仏頂、⁷⁰佩服跣人、⁷¹等罪云々、⁷²何況著袈裟之

30 醜(國)醜(眞)醜(勝)
31 慮奈(眞)一
32 慮奈(眞)一
33 事(眞)一
34 事(眞)一
35 事(眞)一
36 事(眞)一
37 事(眞)一
38 事(眞)一
39 事(眞)一
40 事(眞)一
41 事(眞)一
42 事(眞)一
43 事(眞)一
44 事(眞)一
45 事(眞)一
46 事(眞)一
47 事(眞)一
48 事(眞)一
49 事(眞)一
50 事(眞)一
51 事(眞)一
52 事(眞)一
53 事(眞)一
54 事(眞)一
55 事(眞)一
56 事(眞)一
57 事(眞)一
58 事(眞)一
59 事(眞)一
60 事(眞)一
61 事(眞)一
62 事(眞)一
63 事(眞)一
64 事(眞)一
65 事(眞)一
66 事(眞)一
67 事(眞)一
68 事(眞)一
69 事(眞)一
70 事(眞)一
71 事(眞)一
72 事(眞)一

1 極一
2 鉢(采)一ナシ
3 僣(采)一ナシ
4 不(采)一ナシ
5 爰(采)一受
6 未一未
7 河(采)一所
8 村一抄
9 災(采)一女
10 婦(采)一婦
11 釈一尺

人、打侮之者、其罪甚深矣、

見鳥邪姪、⁷³獸世修善緣第二

禪師信嚴者、和泉國泉郡大領、⁷⁴血沼原主倭麻呂也、⁷⁵聖武天皇御世人也、此大領家之門、有大樹、⁷⁶鳥作巢產兒、⁷⁷抱之而臥、⁷⁸雄鳥還邇飛行求食、⁷⁹養抱兒之妻、⁸⁰求食行之頃、他鳥邇來而婚、⁸¹奸婚今夫、⁸²就心共高翫空、⁸³指於北而飛、⁸⁴棄兒不醜、⁸⁵于時先夫鳥、食物哺持來、⁸⁶見之無妻鳥、⁸⁷于時慈兒、⁸⁸抱之而臥、⁸⁹不求食物、⁹⁰而經數日、⁹¹大領見之、⁹²使入登樹見其巢、⁹³抱兒而死、⁹⁴大領見之、⁹⁵大慈愍心、⁹⁶視鳥邪姪、⁹⁷獸世出家、⁹⁸離妻子捨官位、⁹⁹隨行基大德、¹⁰⁰修善求道、¹⁰¹名曰信嚴、¹⁰²但要語曰、¹⁰³与大德俱死、¹⁰⁴必當同往生西方、¹⁰⁵大領之妻、¹⁰⁶亦血沼原主也、¹⁰⁷大領捨之後者、¹⁰⁸終無他心、¹⁰⁹々慎貞潔、¹¹⁰爰男子得病、¹¹¹臨命終時、¹¹²而白母言、¹¹³飲母乳者、¹¹⁴心延我命、¹¹⁵母隨子言、¹¹⁶乳令飲病子、¹¹⁷子飲乳而歎之言、¹¹⁸噫乎、¹¹⁹捨母甜乳、¹²⁰而我死哉、¹²¹即命終焉、¹²²然大領之妻、¹²³恋於死子、¹²⁴同共出家、¹²⁵修習善法、¹²⁶信嚴禪師、¹²⁷無幸少緣、¹²⁸自行基大德、¹²⁹先命終也、¹³⁰大德哭詠作歌曰、¹³¹加良須止伊布於保乎蘇止利能去乎能、¹³²未止母爾止伊比天佐岐岐智伊奴留、¹³³夫將火炬時、¹³⁴先備蘭松、¹³⁵將雨降時、¹³⁶兼潤石板、¹³⁷示鳥鄙事、¹³⁸領發道心、¹³⁹先善方便、¹⁴⁰見苦居道者、¹⁴¹其斯謂之矣、¹⁴²欲界雜類、¹⁴³鄙行如是、¹⁴⁴獸者背之、¹⁴⁵愚者貪之、¹⁴⁶贊曰、¹⁴⁷可哉血沼原主氏、¹⁴⁸瞰鳥邪姪、¹⁴⁹獸俗塵、¹⁵⁰背浮花飯、¹⁵¹趣常淨、¹⁵²身勤修善、¹⁵³祈惠命、¹⁵⁴心剋安養、¹⁵⁵期解脫、¹⁵⁶是世間異秀獸士者也、

1 沼一治
2 嚴(國)一改
3 也(采)一ナシ
4 後(采)一ナシ
5 乳(采)一ナシ
6 未一未
7 火(國)一大
8 板(國)一坂
9 沼一治